

026 イエスと洗礼者(バプテスマ)のヨハネ(ヨハネによる福音書 3:22~4:4)

▶ヨハネによる福音書 3:22~36

その後、イエスは弟子たちと(エルサレムを離れ)ユダヤ地方(の田舎、荒野)○に行き、そこに一緒に滞在し、洗礼を受けておられた。

他方、ヨハネは、サリムの近くのアイノン○で洗礼を授けていた。そこは水が豊かであったからである(→乾季になるとヨルダン川の水かさが減る、浸礼のバプテスマを授けるため)。人々は来て、洗礼を受けていた。ヨハネはまだ投獄されていなかった(→ヨハネは共観福音書の情報を前提に記している→マタイ 14:1~12、マルコ 6:14~29)。

ところがヨハネの弟子たちと、あるユダヤ人(→数人となっている写本もある)との間で、清めのことで論争が起こった。彼らはヨハネのもとに来て言った。「ラビ(→先生)、ヨルダン川の向こう側であなたと一緒にいた人、あなたが証しされたあの人が、洗礼を受けています(→下線部分:バプテスマのヨハネの弟子たちの嫉妬的な表現)。みんながあの人の方へ行っています。」

ヨハネは答えて言った。「天から与えられなければ、人は何も受けることができない。わたしは、『自分はメシア

(→ヘブライ語「マシアハ」で油注がれた者の意味で、特別に選ばれた者であること、また神の力がその人に臨むしるしでもある)ではない』と言ひ、『自分はその方の前に遣わされた者だ』と言ったが、そのことについては、あなたたち自身が証ししてくれる。花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。」

上から来られる方(福音記者ヨハネの解説)

「上(=天)から来られる方(→イエスこそがイスラエルを治めるために神が選んだ者である)は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。この方は、見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。その証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。神がお遣わしになった方(=イエス)は、神の言葉を話される。神が“霊”を限りなくお与えになるからである。御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。」

▶ヨハネによる福音書 4:1~4

さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派(→BC163から60年のハスモン王朝時代に形成され、特に安息日や断食、施しを行うこと、宗教的な清めを強調し、律法学者の多くがこの派に属した)の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、——洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである——ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。しかし、サマリア□を通らねばならなかった(→地理的要請ではなく、神からの霊的要請)。

